

## G 臨床実習

臨床実習は診療参加型を基本形態とする。診療参加型臨床実習は、「指導医や研修医、さらには看護師や薬剤師等の他の職種も含めた診療チームの中で、医学生が診療チームの一員として一定の役割・責任を担いながら行う臨床実習」と定義される。外来で予診をとる役割や、病棟患者の疾患についての知見(エビデンス)を確認する役割、また患者の検査に同行して不安を和らげる役割等が例として挙げられる。診療現場では、医学生が担うことのできる役割は、一般的に指導医が想定しているよりも大きい。正統的周辺参加論を参考に、「些細なことでもよいので臨床現場で実際に役割を担うことによって得られるやりがい」を医学生の学修動機(モチベーション)とできるような臨床実習を構築する。また期間等の関係で見学型の臨床実習にならざるを得ない場合は、学生が臨床現場で観察したことを記録して指導医との振り返りでそれを基に討論するなど、積極的な学びになるように実習を計画する。

### G-1 診療の基本

#### G-1-1) 臨床実習

##### G-1-1)-(1) 医師として求められる基本的な資質・能力 (A参照)

「A 医師として求められる基本的な資質・能力」(以下、再掲)を常に意識しながら、臨床実習を行う。

- 1 プロフェッショナリズム
- 2 医学知識と問題対応能力
- 3 診療技能と患者ケア
- 4 コミュニケーション能力
- 5 チーム医療の実践
- 6 医療の質と安全管理
- 7 社会における医療の実践
- 8 科学的探究
- 9 生涯にわたって共に学ぶ姿勢

##### G-1-1)-(2) 診療の基本 (F参照)

「F 診療の基本」の内容を基盤として、臨床の現場で研鑽を積む。

##### G-1-1)-(3) 学生を信頼し任せられる役割

臨床実習で学生の評価を行う際は entrustable professional activities <EPA>の考え方を参考にする。下記の大項目を枠組みにしながら、それぞれの診療科で「臨床実習で学生にどのような業務を信頼して任せられるか」「初期臨床研修の初日にできなければならない業務は何か」について考慮し、実際に行う臨床業務の形で学修目標を設定する。

1. 病歴を聴取して身体診察を行う。
2. 鑑別診断を想定する。
3. 基本的な検査の結果を解釈する。
4. 処方を計画する。
5. 診療録(カルテ)を記載する。
6. 患者の状況について口頭でプレゼンテーションする。
7. 臨床上的問題を明確にしてエビデンスを収集する。
8. 患者さんの申し送りをを行う・受け取る。
9. 多職種のチームで協働する。
10. 緊急性の高い患者さんの初期対応を行う。
11. インフォームド・コンセントを得る。
12. 基本的臨床手技を実施する。
13. 組織上の問題の同定と改善を通して医療安全に貢献する。

## G-2 臨床推論

臨床実習では、各診療科で自分が担当する患者について、健康上の問題に関するプロブレムリストを作成する。以下に「F-1 症候・病態からのアプローチ」にある症候・病態ごとに、頻度・重症度を考慮した、想定すべき鑑別診断例を記す。プロブレムごとに、以下の鑑別診断を想定しながら診断に必要な病歴聴取・身体診察をとり、基本的な検査の実施に参加する。なお、このリストは平成 30 年版医師国家試験出題基準「必修の基本的事項」から抽出した疾患例であり、症候に該当する疾患を網羅しているわけではない。臨床推論では可能性のある病態から疾患を導き出すプロセスが重視され、原因疾患を単純に全て暗記することを期待しているわけではないからである。この推論プロセスの学習により、各論で十分には学んでいない疾患についても、鑑別診断として想定できるようになることを目標とする。

### G-2-1) 発熱

**感染症：**肺炎、結核、尿路感染症

**腫瘍：**悪性リンパ腫、腎細胞癌

**自己免疫：**全身性エリテマトーデス<SLE>、炎症性腸疾患

**環境：**熱中症

### G-2-2) 全身倦怠感

**感染症・炎症性：**結核、肝炎

**精神：**うつ病、双極性障害

**中毒性：**アルコール依存症、薬物依存症

**内分泌・代謝：**甲状腺機能亢進症、甲状腺機能低下症、更年期障害

**腫瘍：**悪性腫瘍全般

### G-2-3) 食思(欲)不振

**腫瘍：**悪性腫瘍全般

**消化器：**機能性ディスペプシア<FD>

**呼吸器：**慢性閉塞性肺疾患<COPD>

**循環器：**心不全

**精神：**うつ病

### G-2-4) 体重増加・体重減少

(体重増加)

**急性：**心不全、ネフローゼ症候群

**慢性：**甲状腺機能低下症

(体重減少)

**腫瘍：**悪性腫瘍全般

**内分泌：**糖尿病、甲状腺機能亢進症

**精神：**うつ病

**感染症：**結核

**自己免疫：**炎症性腸疾患

**消化器：**慢性膵炎

**中毒：**アルコール依存症

### G-2-5) ショック

**循環血液量減少性：**急性消化管出血、大動脈瘤破裂、熱傷

**心原性：**急性心筋梗塞、心筋炎

**閉塞性：**緊張性気胸、肺塞栓症

**血液分布異常性：**敗血症、急性膵炎、アナフィラキシー、脊髄損傷

### G-2-6) 心停止

心血管：急性心筋梗塞、急性大動脈解離、大動脈瘤破裂

呼吸器：緊張性気胸、外傷性気胸

神経原性：くも膜下出血、頭部外傷、脊髄損傷

自己免疫：アナフィラキシー

環境：熱中症、寒冷による障害

### G-2-7) 意識障害・失神

脳原発性：くも膜下出血、頭蓋内血腫、脳炎

全身性：心筋梗塞、不整脈、肺塞栓症、てんかん、急性消化管出血、肝不全

### G-2-8) けいれん

脳血管障害：脳梗塞

中毒：薬物依存症、アルコール依存症

感染症：脳炎、脳症、熱性けいれん

### G-2-9) めまい

末梢性：良性発作性頭位めまい症

中枢性：脳出血、脳梗塞

失神性：不整脈、肺塞栓症、弁膜症

心因性：パニック障害

### G-2-10) 脱水

消化器：急性消化管出血、乳児下痢症、急性膵炎

内分泌・代謝：糖尿病

環境：熱中症、熱傷

### G-2-11) 浮腫

局所性：深部静脈血栓症

全身性：心不全、ネフローゼ症候群、慢性腎臓病、肝硬変、甲状腺機能低下症

### G-2-12) 発疹

感染症：ウイルス性発疹症（麻疹、風疹、水痘、ヘルペス）

アレルギー、自己免疫：蕁麻疹、薬疹、全身性エリテマトーデス<SLE>

### G-2-13) 咳・痰

感染症：気管支炎、肺炎、副鼻腔炎

腫瘍：肺癌

特発性：間質性肺疾患

自己免疫：気管支喘息

消化器：胃食道逆流症<GERD>

### G-2-14) 血痰・喀血

呼吸器：肺結核、肺癌

心血管系：僧帽弁膜症、心不全

出血傾向：白血病、播種性血管内凝固<DIC>

### G-2-15) 呼吸困難

呼吸器：肺塞栓症、急性呼吸促(窮)迫症候群<ARDS>、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患<COPD>、緊張性気胸

循環器：心不全

心因性：パニック障害、過換気症候群

### **G-2-16) 胸痛**

**呼吸器**：肺塞栓症、気胸

**循環器**：急性冠症候群

**消化器**：胃食道逆流症<GERD>

**心因性**：パニック障害

### **G-2-17) 動悸**

**循環器**：不整脈

**二次性**：甲状腺機能亢進症

**心因性**：パニック障害

### **G-2-18) 胸水**

**循環器**：心不全

**呼吸器**：肺炎、肺結核、肺癌

**消化器**：肝硬変、急性膵炎

**自己免疫**：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス<SLE>

**腎・泌尿器**：ネフローゼ症候群

### **G-2-19) 嚥下困難・障害**

**神経**：脳出血、脳梗塞

**呼吸器**：扁桃炎、肺癌

**消化器**：胃食道逆流症<GERD>、食道癌

**心因性**：身体症状症

### **G-2-20) 腹痛**

**消化器**：機能的性ディスペプシア<FD>、過敏性腸症候群、炎症性腸疾患、消化性潰瘍、急性虫垂炎、胆石症、急性膵炎、腸閉塞、鼠径ヘルニア

**泌尿・生殖器**：尿路結石、流・早産

**循環器**：急性冠症候群

**心因性**：身体症状症

### **G-2-21) 悪心・嘔吐**

**消化管**：機能的性ディスペプシア<FD>、腸閉塞、食中毒

**循環器**：急性心筋梗塞

**神経**：片頭痛、脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫

**精神**：うつ病

### **G-2-22) 吐血・下血**

(吐血)

**食道**：食道静脈瘤、食道癌

**胃**：消化性潰瘍、胃癌

(下血)

**上部消化管**：食道静脈瘤、消化性潰瘍

**下部消化管**：炎症性腸疾患、大腸癌

### **G-2-23) 便秘・下痢**

(便秘)

**機能的性**：過敏性腸症候群、甲状腺機能低下症

**器質性**：腸閉塞、大腸癌

(下痢)

**炎症性**：急性胃腸炎、炎症性腸疾患  
**腸管運動異常**：過敏性腸症候群、甲状腺機能亢進症  
**浸透圧性**：慢性膵炎

#### G-2-24) 黄疸

**抱合型**：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、胆管炎、膵癌  
**非抱合型**：溶血性貧血

#### G-2-25) 腹部膨隆（腹水を含む）・腫瘤

**消化管**：腸閉塞、大腸癌  
**腹水**：肝硬変、ネフローゼ症候群、心不全  
**腫瘤**：肝癌、卵巣嚢腫

#### G-2-26) 貧血

**鉄欠乏性貧血**：消化性潰瘍、痔核、子宮筋腫  
**造血器腫瘍**：白血病、骨髄腫  
**二次性貧血**：肝硬変、慢性腎臓病、アルコール依存症

#### G-2-27) リンパ節腫脹

**感染症**：ウイルス性発疹症（風疹・麻疹）、結核  
**自己免疫**：全身性エリテマトーデス<SLE>  
**腫瘍**：悪性リンパ腫、その他の悪性腫瘍全般

#### G-2-28) 尿量・排尿の異常

**（多尿）**：  
**浸透圧利尿**：糖尿病  
**中毒**：薬剤性  
**（頻尿）**  
**畜尿障害**：尿路感染症、脊髄損傷  
**排出困難（排出障害）**：前立腺肥大症、尿路感染症、前立腺癌

#### G-2-29) 血尿・タンパク尿

**腎臓**：糸球体腎炎症候群、ネフローゼ症候群、糖尿病腎症、腎細胞癌  
**尿管、膀胱**：尿路結石、尿路感染症、膀胱癌

#### G-2-30) 月経異常

**無月経**：妊娠  
**月経困難**：月経困難症、子宮内膜症  
**不正性器出血**：子宮頸癌、子宮体癌

#### G-2-31) 不安・抑うつ

**一次性**：うつ病、双極性障害、不安障害  
**二次性（不安障害）**：甲状腺機能亢進症、悪性腫瘍全般  
**二次性（うつ病）**：甲状腺機能低下症、認知症、Parkinson 病、悪性腫瘍全般

#### G-2-32) もの忘れ

**血管**：脳梗塞  
**変性**：認知症、Parkinson 病  
**精神**：うつ病

### G-2-33) 頭痛

機能性：緊張型頭痛、片頭痛

症候性：髄膜炎、脳出血、くも膜下出血、緑内障、急性副鼻腔炎

### G-2-34) 運動麻痺・筋力低下

脳病変：脳梗塞、一過性脳虚血発作、脳出血、頭蓋内血腫

脊髄病変：脊髄損傷、椎間板ヘルニア

末梢神経病変：糖尿病

神経筋接合部病変：肺癌

筋病変：甲状腺機能亢進症、アルコール性中毒

### G-2-35) 腰背部痛

呼吸器：肺癌

心血管：急性大動脈解離

消化器：胆石症

泌尿・生殖器：尿管結石、腎細胞癌

脊椎：椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、脊椎圧迫骨折、骨髄腫

### G-2-36) 関節痛・関節腫脹

単関節炎：痛風

多発関節炎：関節リウマチ、全身性エリテマトーデス<SLE>

### G-2-37) 外傷・熱傷

一次性：頭部外傷、骨折、外傷性気胸、脊髄損傷、熱傷

二次性：急性大動脈解離、脳出血、くも膜下出血、頭蓋内血腫

## G-3 基本的臨床手技

ねらい：

基本的臨床手技の目的、適応、禁忌、合併症と実施法について事前に十分理解した上で、指導医の指導・監督の下で自ら実施する、又は指導医の実施を見学し、介助する。

### G-3-1) 一般手技

学修目標：

- ①体位交換、移送ができる。
- ②皮膚消毒ができる。
- ③外用薬の貼付・塗布ができる。
- ④気道内吸引、ネブライザーを実施できる。
- ⑤静脈採血を実施できる。
- ⑥末梢静脈の血管確保を実施できる。
- ⑦中心静脈カテーテル挿入を見学し、介助する。
- ⑧動脈血採血・動脈ラインの確保を見学し、介助する。
- ⑨腰椎穿刺を見学し、介助する。
- ⑩胃管の挿入と抜去ができる。
- ⑪尿道カテーテルの挿入と抜去を実施できる。
- ⑫ドレーンの挿入と抜去を見学し、介助する。
- ⑬注射（皮内、皮下、筋肉、静脈内）を実施できる。
- ⑭全身麻酔、局所麻酔、輸血を見学し、介助する。
- ⑮眼球に直接触れる治療を見学し、介助する。
- ⑯診療録（カルテ）を作成する。

⑰各種診断書・検案書・証明書の作成を見学し、介助する。

### G-3-2) 検査手技

学修目標：

- ①尿検査（尿沈渣を含む）を実施できる。
- ②末梢血塗抹標本を作成し、観察できる。
- ③微生物学検査（Gram 染色を含む）を実施できる。
- ④妊娠反応検査を実施できる。
- ⑤血液型判定を実施できる。
- ⑥視力、視野、聴力、平衡機能検査を実施できる。
- ⑦12誘導心電図を記録できる。
- ⑧脳波検査の記録ができる。
- ⑨眼球に直接接触する検査を見学し、介助する。
- ⑩心臓、腹部の超音波検査を実施できる。
- ⑪経皮的酸素飽和度を測定できる。
- ⑫エックス線撮影、コンピュータ断層撮影<CT>、磁気共鳴画像法<MRI>、核医学検査、内視鏡検査を見学し、介助する。

### G-3-3) 外科手技

学修目標：

- ①無菌操作を実施できる。
- ②手術や手技のための手洗いができる。
- ③手術室におけるガウンテクニックができる。
- ④基本的な縫合と抜糸ができる。
- ⑤創の消毒やガーゼ交換ができる。
- ⑥手術、術前・術中・術後管理を見学し、介助する。

### G-3-4) 救命処置

学修目標：

- ①身体徴候、バイタルサインから緊急性の高い状況であることを判断できる。
- ②一次救命処置を実施できる。
- ③二次救命処置を含む緊急性の高い患者の初期対応に可能な範囲で参加する。

## G-4 診療科臨床実習

臨床実習においては、いずれの診療科においても、主要な疾患をもつ患者を担当し、その診療に可能な限り参加することで、以下の学修目標に到達することが望まれる。臨床実習を行う場については、よくある疾患を経験することの重要性等の理由で、大学病院だけでなく、指導医の質・量が十分に保証された地域の医療機関で行うことも推奨される。また病棟だけでなく、外来も積極的に活用し、十分に経験できない診療内容についてはシミュレーション教育も活用する。総じて全学年を通して、臨床現場を活用した臨床教育を推進することが望まれる。そして、医師として求められる基本的な資質・能力の将来的な獲得に向けて学生が継続的に歩み続けられるようサポートする。なお経験目標になっている項目（「～に参加する」等）については、振り返りの際などにできるだけ経験した内容を言語化するように心がける。

### G-4-1) 必ず経験すべき診療科

#### G-4-1)-(1) 内科

ねらい：

- ①将来、内科医にならない場合にも必要な内科領域の診療能力について学ぶ。
- ②内科医のイメージを獲得する。

**学修目標（一部方略を含む）：**

- ①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ②疾患の病態や疫学を理解する。
- ③内科的治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。
- ④複数の臓器にまたがる問題を統合する視点を獲得する。
- ⑤基本的な内科的診察技能について学ぶ。
- ⑥どのように内科にコンサルテーションすればよいかわかる。

**G-4-1)-(2) 外科**

**ねらい：**

- ①将来、外科医にならない場合にも必要な外科領域の診療能力について学ぶ。
- ②外科医のイメージを獲得する。

**学修目標（一部方略を含む）：**

- ①外科的治療の適応を知る。
- ②手術計画の立案に可能な範囲で参加する。
- ③周術期管理に可能な範囲で参加する。
- ④手術等の外科的治療に可能な範囲で参加する。
- ⑤基本的な外科的手技について学ぶ。
- ⑥どのように外科にコンサルテーションすればよいかわかる。

**G-4-1)-(3) 小児科**

**ねらい：**

- ①将来、小児科医にならない場合にも必要な小児科領域の診療能力について学ぶ。
- ②小児科医のイメージを獲得する。

**学修目標（一部方略を含む）：**

- ①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ②疾患の病態や疫学を理解する。
- ③治療の立案・実施に可能な範囲で参加する。
- ④保護者から必要な情報を得たり対応したりすることに可能な範囲で参加する。
- ⑤小児の成長・発達の評価に可能な範囲で参加する。
- ⑥基本的な小児科診察技能について学ぶ。
- ⑦どのように小児科にコンサルテーションすればよいかわかる。

**G-4-1)-(4) 産婦人科**

**ねらい：**

- ①将来、産婦人科医にならない場合にも必要な産婦人科領域の診療能力について学ぶ。
- ②産婦人科医のイメージを獲得する。

**学修目標（一部方略を含む）：**

- ①妊婦の周産期診察及び分娩に可能な範囲で参加する。
- ②女性の健康問題に関する理解を深める。
- ③主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ④疾患の病態や疫学を理解する。
- ⑤手術を含めた婦人科的治療に可能な範囲で参加する。
- ⑥基本的な婦人科診察技能について学ぶ。
- ⑦どのように産婦人科にコンサルテーションすればよいかわかる。

**G-4-1)-(5) 精神科**

**ねらい：**



- ①将来、精神科医にならない場合にも必要な精神科領域の診療能力について学ぶ。
- ②精神科医のイメージを獲得する。

**学修目標（一部方略を含む）：**

- ①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ②疾患の病態や疫学を理解する。
- ③精神科的治療に可能な範囲で参加する。
- ④基本的な精神科面接技法について学ぶ。
- ⑤どのように精神科にコンサルテーションすればよいかわかる。

**G-4-1)-(6) 総合診療科**

**ねらい：**

- ①どの科の医師になっても求められる総合診療能力について学ぶ。
- ②総合診療医のイメージを獲得する。

**学修目標：**

- ①病歴・身体診察を重視した診断推論（診断がつかない場合を含む）を組み立てる、又はたどる。
- ②健康問題に対する包括的アプローチ（複数の健康問題の相互作用等）を体験する。
- ③家族や地域といった視点を持ち、心理・社会的背景により配慮した診療に可能な範囲で参加する。
- ④在宅医療を体験する。
- ⑤多職種連携を体験してその重要性を認識する。
- ⑥臨床現場において、保健・医療・福祉・介護に関する制度に触れる。

**G-4-1)-(7) 救急科**

**ねらい：**

- ①どの科の医師になっても求められる救急診療能力について学ぶ。
- ②救急科医のイメージを獲得する。

**学修目標：**

- ①呼吸、循環を安定化するための初期治療を学ぶ。
- ②症候をベースとした診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ③チーム医療の一員として良好なコミュニケーションを実践できる。
- ④家族や地域といった視点を持ち、保健・医療・福祉・介護との連携を学ぶ。
- ⑤救急隊員との連携を通じて、病院前救護体制とメディカルコントロールについて学ぶ。
- ⑥地域の災害医療体制について学ぶ。

**G-4-2) 上記以外の診療科**

上記以外の診療科（皮膚科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、泌尿器科、脳神経外科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、形成外科、リハビリテーション科、歯科口腔外科等）については、それぞれの大学の状況に合わせて以下のねらい・学修目標を参考に、臨床実習を計画・実施する。

**ねらい：**

- ①将来、該当診療科の医師にならない場合にも必要な該当診療科領域の診療能力について学ぶ。
- ②該当診療科の医師のイメージを獲得する。

**学修目標：**

- ①主訴からの診断推論を組み立てる、又はたどる。
- ②疾患の病態や疫学を理解する。
- ③該当診療科の治療に可能な範囲で参加する。

- ④該当診療科の基本的な診察技能について学ぶ。
- ⑤どのように該当診療科にコンサルテーションすればよいかわかる。

### **G-4-3) 地域医療実習**

**ねらい：**

地域社会で求められる保健・医療・福祉・介護等の活動を通して地域医療と地域包括ケアシステムを一体的に構築することの必要性・重要性を学ぶ。

**教育方略：**

- ①学外の臨床研修病院等の地域病院や診療所、さらに保健所や社会福祉施設等の協力を得る。
- ②必要に応じて臨床教授制度等を利用する。
- ③早期臨床体験実習を拡充し、低学年から継続的に地域医療の現場に接する機会を設ける。
- ④衛生学・公衆衛生学実習等と連携し、社会医学的（主に量的）な視点から地域を診る学習機会を作る。
- ⑤人類学・社会学・心理学・哲学・教育学等と連携し、行動科学・社会科学的（主に質的）な視点から地域における生活の中での医療を知り体験する学習機会を作る。

### **G-4-4) シミュレーション教育**

**ねらい：**

医療安全の観点から臨床現場を想定した環境でシミュレーションによるトレーニングを積むことで、実際の臨床現場で対処できるようになる。

**教育方略：**

- ①シミュレータを用いて反復練習をすることで、臨床技能を磨く。
- ②模擬患者の協力を得て、臨床技能（コミュニケーションスキルを含む）や医療者に求められる態度を身に付ける。
- ③シナリオを用いたトレーニングを通して、状況判断、意思決定能力を獲得する。
- ④チームトレーニングによって、チーム医療の実践能力を高める。
- ⑤振り返りによって自己省察能力を高める。

以上を踏まえ、臨床実習を行う際の例示として次頁以降でガイドラインを示すので、参考にされたい。